地域のチカラを応援する遠野健康福祉の里のニュースレター

「つながる・支え合い」たより

令和５年2月号
（第１２号）
発行：遠野市健康福祉部
健康福祉の里

生活支援コーディネーターの活動から
地域で「つなぐ・つながる」⑰

住民による地域支え合い活動
～ 綾織町支えあいネットワークの活動から ～

丸ごと相談員綾織地区担当　菊池　直美

▼地域住民の「困った」から、「困りごと班」ができました

平成二十九年度より行われている、綾織町まちづくり実践ワークショップでは、「住民のために何かできないか」という声から「困りごと班」ができました。

令和元年度、独居高齢者を対象に移動販売のニーズ調査を実施し、把握したものを、「見える化」、「具現化」しました。優先的に解決が必要なこととして、移動販売車の活用計画があがり、「移動販売マップ」として発行することができました。

引き続きワークショップでの話し合いを深める中で、地域住民の「できること」を活かした主体的な活動が、地域課題の解決を図ることにもつながることから、綾織町全体がより暮らしやすい町を目指す「綾織町支えあいネットワーク」の立ち上げにつながりました。

移動販売車を効率よく利用するために作成した「移動販売マップ」

▼有償ボランティアチーム「綾織町支えあいネットワーク」

現在、支え合いネットワークでは、高齢者世帯や空き家住宅などを対象とした草刈りと除雪の活動のため、草刈り機作業従事者の安全衛生教育講習会や除雪機安全講習会等を受講して現在活動しております。

今までの活動を通して、さらなるニーズに対応できるよう、今年度は草刈りボランティアの増員を行い、草刈り以外の「ちょっとした」環境整備も行ってきました。

除雪は、早めの対応が必要であるため、二班構成にして班長が実態把握を行い、早めに対応できる人材確保のため、各グループでラインを利用して連絡網を確立し活動しています。

チーム一体となった草刈り作業

▼「互いに支え合う」まちづくり

草刈りや除雪を依頼した方々からは「高齢の自分では、もうどうすることも出来ず、本当に助かった」、「防犯上の面でも家の周りを荒らしておくことが不安だった」、介護事業所からも「路上駐車は出来ないので除雪して頂き訪問しやすい」など、多くの声を頂きました。

これからも、地域でできる取り組みを行い、支え合いの仕組みづくりと地域住民が「互いに支え合う綾織町」を目指し活動していきたいと思います。

機械は使わずていねいに手作業で行っています

令和５年２月号もくじ　・・・　P1 住民による地域支え合い活動（綾織町）／P2～3 シリーズ福祉行政の今⑦ もっとつながるために、もっとひろがるために（福祉課）／P4 コロナに負けない!!一人暮らし交流会（上郷町）

制作：遠野健康福祉の里福祉課（支え合い支援担当）・健康長寿課（生活支援体制整備事業担当）TEL 62-5111（代表）

もっとつながるために、もっとひろがるために

～重層事業の研修から①～

昨年秋から先月にかけて、厚生労働省が主催する重層的支援体制推進人材養成研修に参加しました。

重層的支援体制整備事業の推進にあたっては、制度の理念や考え方、実践方法を理解するだけでなく、地域の関係者とともに現実の問題に向き合い、課題認識を共有し、同じ方向を向いて協働していくことが大切であることから、本研修では、我がまちの支援ケース(個別事例)や課題、地域資源、既存の取組等について収集・共有し、対話を通じて協力者との相互理解を深め、ともに取り組む意義や具体的な取り組みを見つけることを目指すものです。

ここでは、基礎編グループの取組みの様子を紹介いたします。

【参加者】
- 丸ごと相談員
- 自立生活相談窓口相談員
- 地域活動支援センター相談員
- 社会福祉協議会ボランティア担当
- 健康福祉の里健康長寿課 生活支援体制整備事業担当
- 健康福祉の里健康長寿課 保健師
- 福祉課 支え合い支援担当
- 包括化推進員

基礎編グループ

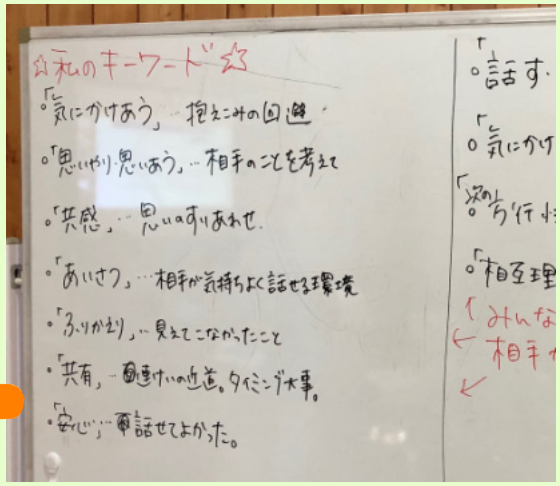
誰一人も取り残さないための「連携」と「協働」のために

R4.9.13 ライブ研修① STEP1

よりよい「連携」のために大切なことは？

最初の研修内容は、「多様な相談者像の理解」、「体制整備の必要性と取り組み方」でした。

個別の事例に複数で対応するときに必要なのが「連携」。研修では、よりよい連携のためにお互いが大切なこととして、関係者それぞれの姿勢や考え方が異なることを理解したうえで、「気にかけ合う」ことや「思いやり」が大切であることを共有しました。



R4.9.29 実践演習①ワーキング STEP2

当事者にとって望ましい支援を実現するために

ワーキングでは、当事者にとって望ましい支援を実現するために、これまで対応した個別事例の中から、「うまく連携できたこと」、「うまく連携できなかったこと」と思う機能についてチームで振り返りを行いました。

【望ましい支援を実現するためには】

①確実な対象者の情報把握
　定期的な世帯訪問や、市民からの相談をたらい回しにしない仕組みづくり

②関係機関の連携と自律に向けた支援
　相互に目的を明確化させ、共有をしっかり行う、定期的な（支援方針の）合意形成

③地域等のつながり
　定期的な共有の場、居場所、地域と行政との顔つなぎ役目として、福祉の里が地域に出向く

④継続的な支援
　年代のはざまに対するサービス、ケースにかかわる現場の人たちへのフォロー体制充実

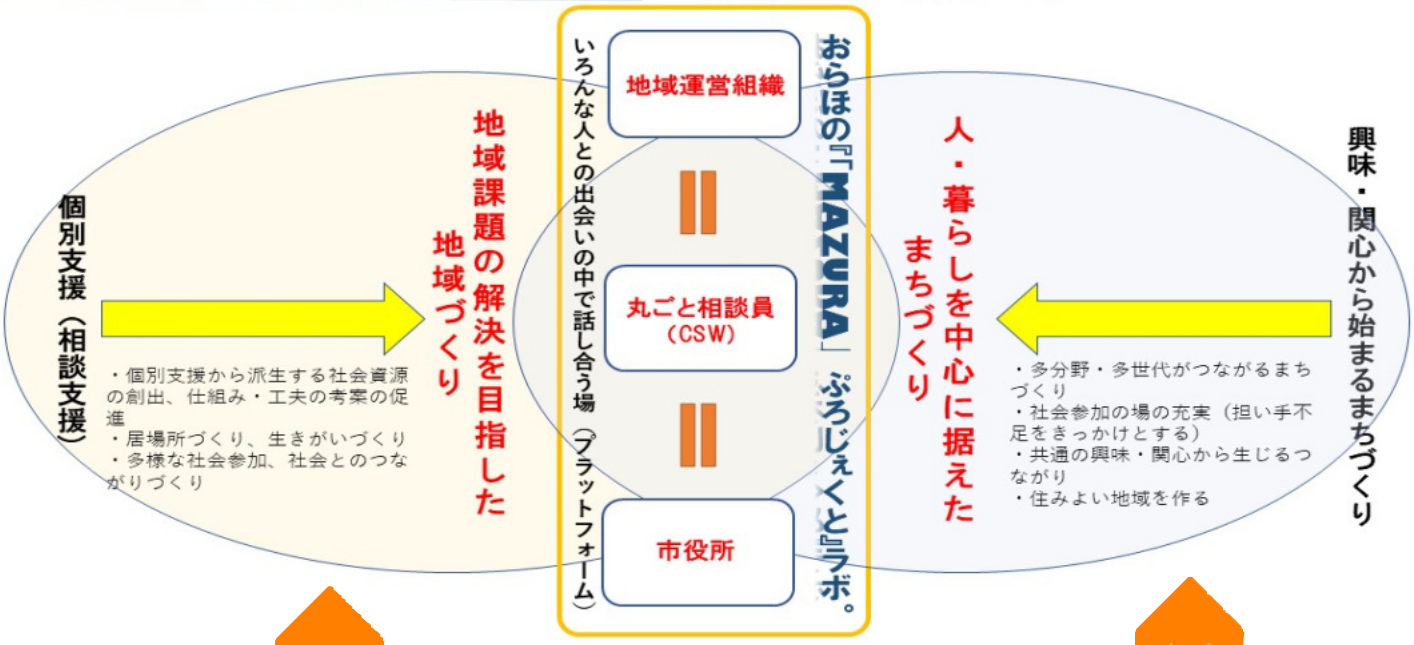
などがあり、「我がまち」で取り組みたいこととして、次のネクストアクションにまとめました。

現在、検討を重ねている取組のイメージ

★今後、さらにチームで検討を重ねていく予定です。

『MAZURAぷろじぇくと』

いいことでも、困りごとでもすべて「我が事」としてとらえ、みんなでやろうという気持ちをもって課題の解決へ取り組む、地域と行政をつなぐアクション。



R4.12.12　実践演習②ワーキング　STEP5

『MAZURAぷろじぇくと』の誕生！

当初のネクストアクション(案)(出張！まるごと相談会)をブラッシュアップし、個別課題から広がった地域課題解決へ取り組むためには、地域と行政などがつながることが必要であることから、そのアクションとして、「MAZURA(まずら)ぷろじぇくと」を考えてみました。
「MAZURA」は、方言から、「〇〇ごと」の意味ですが、ここでは「なんでも丸ごと」を指しています。そして、話し合いの場を「おらほの『MAZURA』ぷろじぇくとラボ。」と名づけました。

R4.11.15　ライブ研修②　STEP4

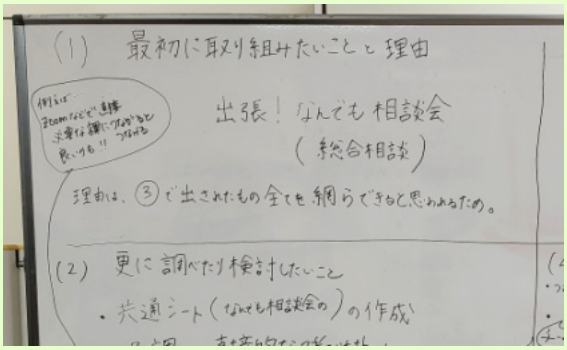
「連携」から、我がまちの「協働」をひろげて

2回目のライブ研修では、「連携」と「協働」のあり方について考えるテーマで、2つの自治体の取り組み事例を聞き、そこから得たヒントをもとに、ネクストアクション(案)をさらに煮詰めてみました。
本研修の初期のワークは個別事例から「連携」を考えるものでしたが、「我がまち」に視点を広げていくと、関係機関が相互に取り組む「協働」に展開していきます。この事業は、個人の困りごとは地域の困りごとにもつながる「我が事」として解決にあたっていく体制を構築していくことも目的の一つです。「連携」から「協働」への展開を踏まえ、実践演習②につなげるため、さらにネクストアクションを練り直すことにしました。

ネクストアクション(案)　STEP3

『出張！なんでも相談会』の開催

ネクストアクションでは、地域と市役所部署との顔つなぎの場が必要だと感じている（丸ごと相談員から）ことから、住民が身近な場所で相談できる仕組みとして、居場所としての機能を兼ねた『出張！なんでも相談会』を考えました。



※この研修のアクションプランに興味のある方は、遠野健康福祉の里福祉課へお知らせください。

生活支援コーディネーターの活動から

地域で「つなぐ・つながる」⑱

コロナに負けない！一人暮らし交流会

～ 関係者の「工夫」とみんなの「決断」を経て ～

丸ごと相談員上郷地区担当　谷地　信弥

▼コロナ禍における、一人暮らし交流会を開催

新型コロナウイルス感染症の影響により、上郷町でも例年開催されていた行事の中止・縮小を余儀なくされてきている現況にありましたが、一人暮らし交流会が十月二十五日（火）午前十一時から「ウエディングパレス道」を会場に二十九名の参加者を迎え、開催されました。

開催については感染拡大予防から昨年同様、会場での飲食は行わないこととしました（参加者には帰り際にお弁当をお渡ししています）。

非対面とした席の配置を行い、感染予防対策を施しました。

開会に合わせて地域の相談役である民生児童委員さんの紹介に続いて、余興では上郷駐在所森岩所長さんから『「電話代・電気代がこんなに安くなりますよ！」こんな電話が来ませんか？』と題した講話や、上郷地区センターを定期利用している団体「芳柳流寿々郁会（よしやなぎりゅうじゅじゅいくかい）」の踊りの披露がありました。

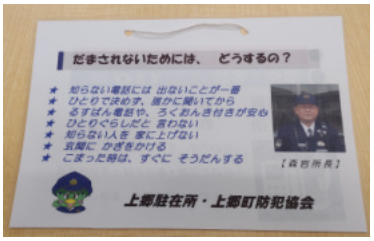
また、参加者全員へは森岩所長手づくりの警察・救急車・火事の際の連絡先が記載されたラミネートカードが配られました。

▼引き続き、活気を与え、生活の励みになる交流会を

参加人数のほか多くの制限がある中での交流会開催になりましたが、主催側をはじめとする関係各位が感染防止対策の協議を重ね、開催に結び付けることができた成果でもありました。

日頃の話題や課題などを出し合い、一人で暮らす方々が顔を合わせることで互いの元気を確認し、活気を得て、生活の励みとする交流会を、来年度以降も開催・企画運営していくことが目標となっています。

（上）芳柳流寿々郁会による踊り3曲（「熊野古道」、「女に年はいらない」、「上郷小唄」）を披露。
（左）上郷駐在所長さんによる講話。
（下）配布されたラミネートカード。



編集後記

「つながる・支え合いたより」二月号（第12号）をお届けします。

本号3ページから紹介している重層事業の研修会では、オンライン会議を通じて、全国の参加者と意見を交換することができましたが、どこも手探り状態で進めている自治体が多いことが分かりました。厚生労働省でも目標に到達するより、その過程が大事とおっしゃっていました。

集うこと、話し合う事で得られる共感が人と人とをつなぎきっかけとなり、個人が持っている「強み」が困りごと（地域課題）への解決につながる仕組みを、ネクストアクションとしてつなげていきたいと思っています。

（支え合い支援担当）